

日永（春になり日が長くなる様）

鑄掛屋の回る深川鰯東風

本線と岐れたちまち枯野かな

裂帛の竹刀のうなり初稽古

一条の初日差し来る欄間かな

本堂に猫一匹の日永かな



鑄掛屋の 回る深川 鱈東風

いかけやの まわるふかがわ さわらこち

鱈東風（さわらごち）」とは、春に吹く東風（こち）のこと



鑄掛屋





深川



鑄掛屋



門前仲町（東西線）



水場

深川 界隈

本堂に 猫一匹の 日永かな

ほんどうに ねこいっぴきの ひながかな

日永（ひなが）

春になり、昼の時間が伸びて来ることをいう。



裂帛の 竹刀のうねり 初稽古

れっぱくの ひなみのうねり はつげいのこ

裂帛（れっぱく）とは、布が裂ける際の鋭い音を指す言葉です。その鋭い音のイメージから転じて、女性の悲鳴や、剣士が太刀を振る際の鋭い気合いを表現する際にも用いられるようになりました。

“Battle shout” （戦闘の気合い）



本線と 岐れたちまち 枯野かな

ほんせんと わかれたちまち かれのかな



枯野に行くキハ200—小湊鉄道大久保付近—



旅にやんで夢は枯野をかけまはる

一条の 初日差し来る 欄間かな

いちじょうの はつひさしたる らんまかな

一条とは暗闇の中に差し込む一筋の光を指し、希望や光明の比喻として使われます。困難な状況や絶望の中でも、わずかな希望を見出す状況を表す際に用いられます。

